環境月間　プラスチックに関するアンケート
調査結果
（令和３年６月１日～6 月 29 日）

令和３年７月

１．はじめに

昭和 47 年 6 月 5 日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、6 月 5 日は「環境の日」として定められており、日本では「環境基本法」が「環境の日」を定めている。平成 3 年度からは 6 月の一ヶ月間を「環境月間」とし、全国で様々な行事が行われている。

本市においては、令和元年 8 月から「うべ SDGs プラスチック・スマート運動」を開始し、世界規模で問題となっている海洋上のプラスチックごみの削減や、使い捨てプラスチックを使用しない生活に向けた取組を進めているが、市民の皆様に環境問題について広く興味を持っていただき、「じぶんごと」として行動に移していただくため、環境月間である 6 月にプラスチックごみ等に関する啓発ポスターを市役所本庁舎及び市立図書館に展示した。

２．目的

これまでに、宇部市では「プラスチックごみ削減に関する宇部市職員アンケート（令和 2 年)」、「企業アンケート（No_Plastic!UBE アンケート）（令和 2 年)」及び「プラスチックに関する市民アンケート（令和 3 年)」を実施してきた。

今後、プラスチックの削減や循環利用に向けた取組を進めていくにあたり、「プラスチックに関する市民アンケート（令和 3 年)」では市民の環境問題に対する認知度やニーズ、リサイクルの現状を調査したが、引き続き市民の意識を調査するため、また、今後予定している実証事業の参考資料とするため、ポスター展示を行った市役所本庁舎及び市立図書館においてアンケート調査を実施した。なお、アンケート内容は一部変更し、より具体的な取組や値上げについての設問を設けた。

３．実施期間

実施期間は環境月間の 6 月とした.

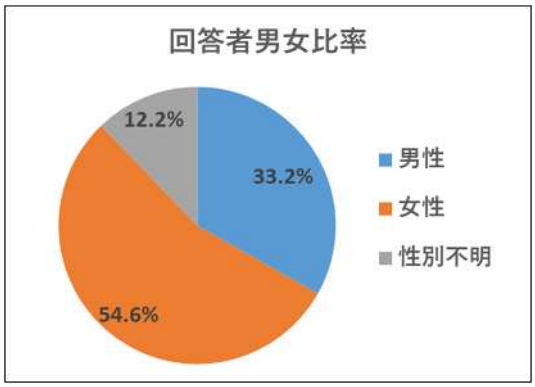
４．調査結果

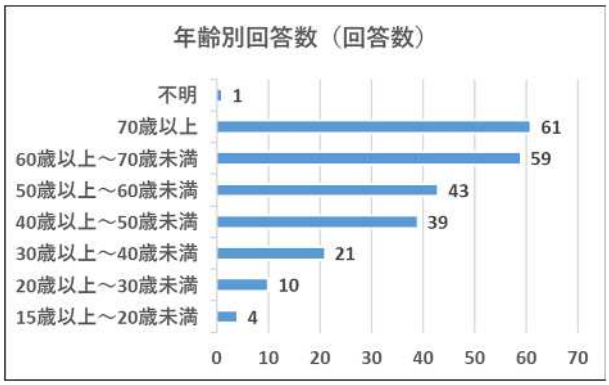
アンケート調査の結果、238 枚の回答を得ることができた。各質問の結果を以下に示す。

（１） 回答者男女割合・年齢別割合

回答者の男女の割合は男性が 33.2%、女性が 54.6%で、女性が高い結果となった。

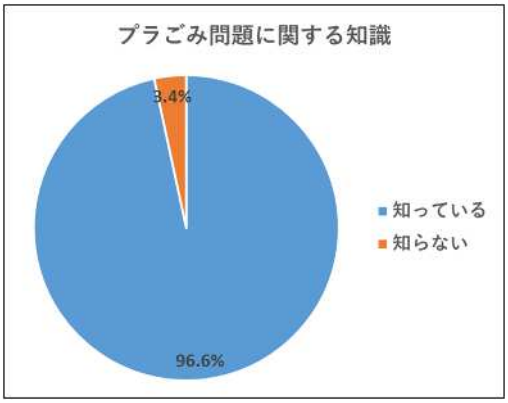
回答者の年齢別回答数をみると、年齢が上がる程回答数も多くなる結果となった。

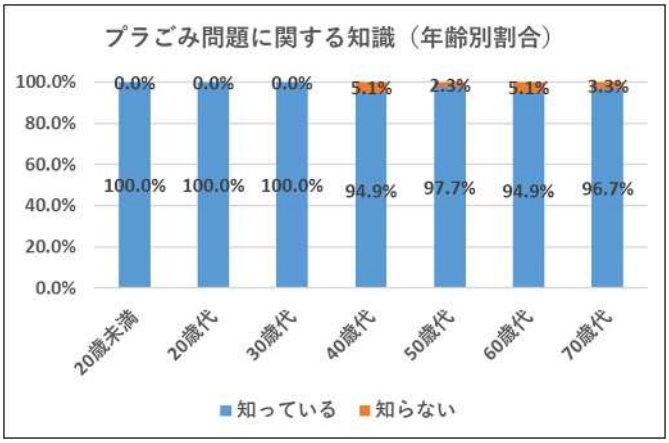




（２） 知識の有無

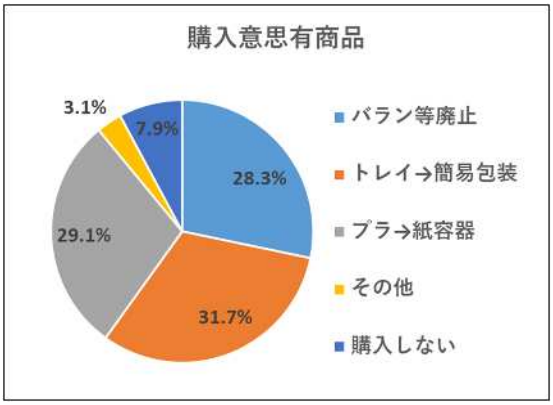
プラスチックに関する問題（海洋プラスチックごみ問題、マイクロプラスチックの問題、廃プラスチックの取扱、リサイクルに関する問題など）については、全回答者の96.6%の人が「知っている」と回答した。

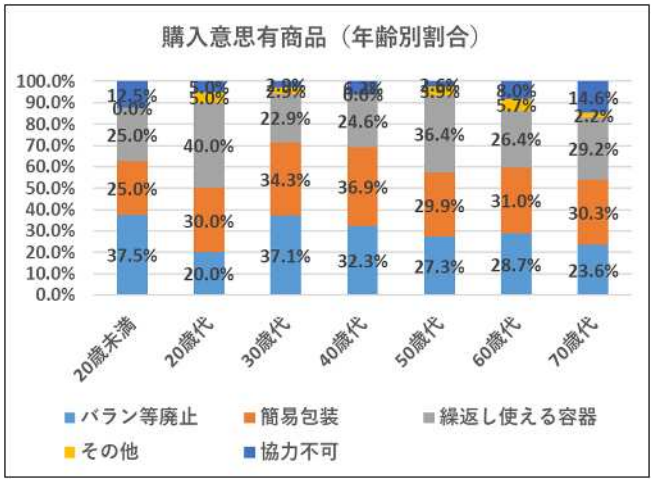




（３） 取組への意識

協力可能な取組内容については、選択肢として３つの取組を設けたが、いずれも概ね３割程度であった。また、「協力できない」と答えた人は7.9%であった。

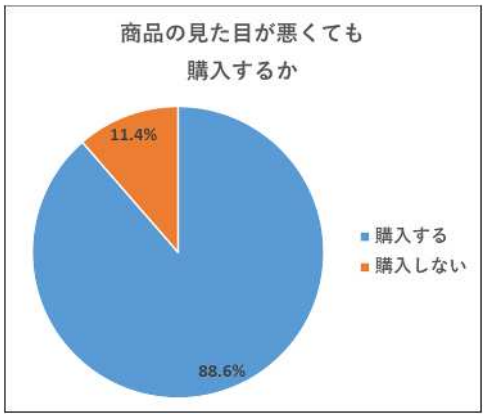


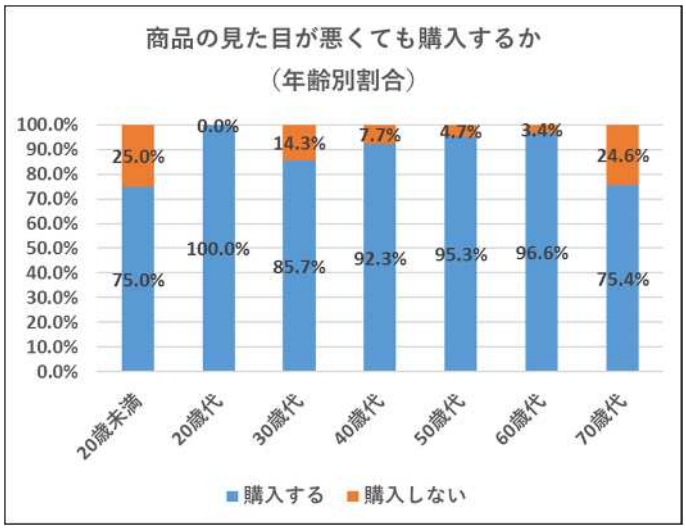


（４） 商品の見た目が悪くても購入するか

商品の見た目の重要度については、88.6%の人が「購入する（見た目は重要ではない）」と回答し、「購入しない（重要である）」と回答した人の割合は 11.4%であった。

また、年齢別にみると見た目が「重要である」と回答した割合が最も高いのは 20 歳未満の 25.0%であり、次いで 70 歳代の 24.6%であった。

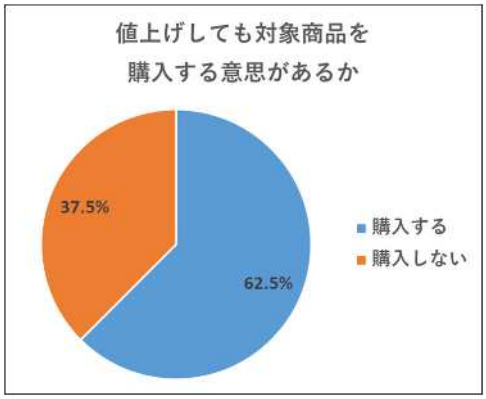


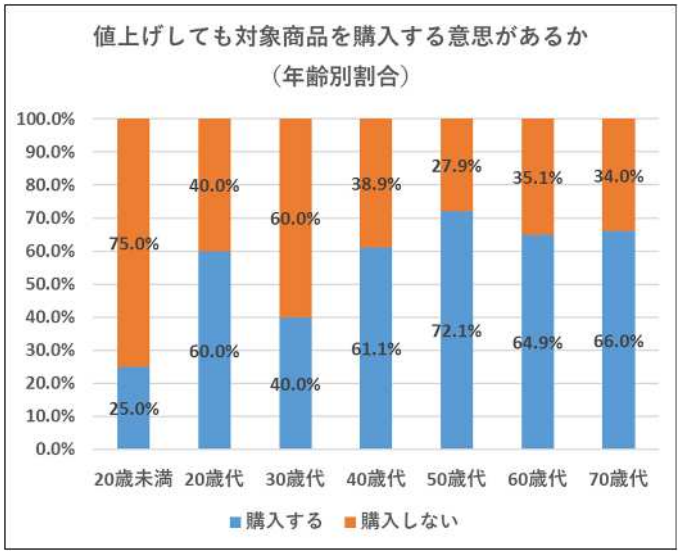


（５） 値上げについて

対象商品について値上げしても購入する意思があるかをみてみると、「購入する」を選択した割合が 62.5%であり、半数以上の人が家庭のごみを減らすことができる、環境保全等に貢献できる等の理由から、包装方法の見直しによる商品の値上げを容認することがわかった。

年齢別にみると、ばらつきはあるものの若年層ほど「購入しない」と答えた割合が多い傾向がみられる。

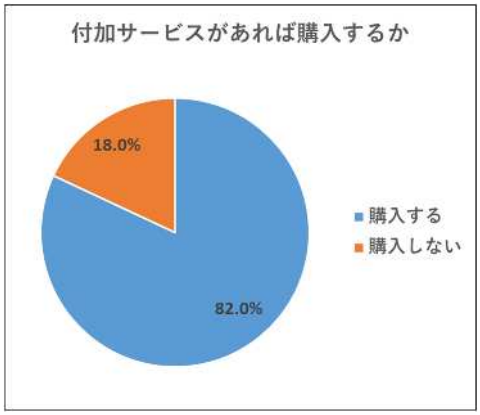


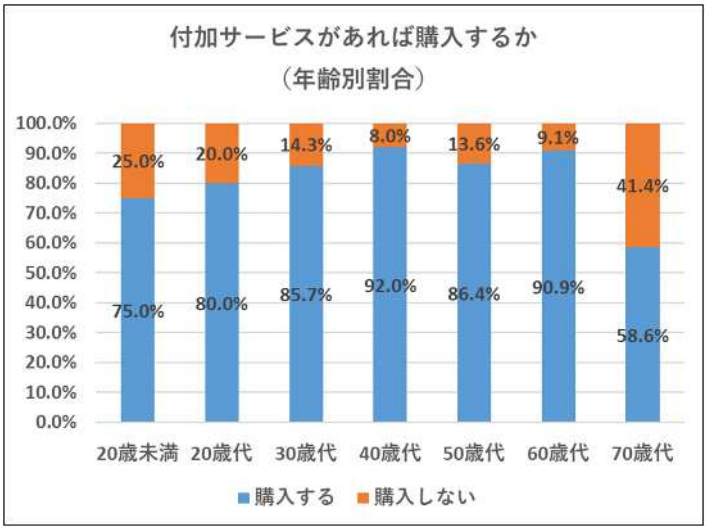


（６） 取組に反対の場合の購入条件

プラスチック削減に向けた取組に反対と回答した人のうち、**「何らかの付加サービスがあれば購入する」と回答した人が 82.0%**であった。18.0%の人は付加サービスがあっても簡易包装化等の商品を購入しないと回答した。

年齢別にみると、取組に反対する人のうち、70 歳代は「付加サービスがあっても購入しない」と回答した割合が 41.4%と最も高い。





５．まとめ・考察

「協力可能な取組」については、90%以上の人が**プラスチック削減容器（製品）等の購入意思があることがわかった。**

「見た目が悪くても購入するか（商品の見た目の重要度）」は、**全体の 88.6%が「購入する（見た目は重要ではない）」と回答**している。令和３年１月から４月のアンケート調査と同様の結果となったが、実際の消費行動は「見た目が重要」と考える企業側の考えと、どこまで差があるのかを把握することは今後の取組の参考データになると考えられる。「購入しない（見た目が重要）」と回答した割合は 11.4%であったが、特に 20 歳未満と 70 歳代が高い傾向にあり、資産（生活）状況が反映されている可能性も考えられる。

「値上げしても購入するか」については、**「購入する」と回答した割合が 62.5%となり**、これらの人は値上げというデメリットよりも家庭のごみを減らす等のメリットの方が大きいと感じている可能性がある。しかし、37.5%の人は「購入しない」と回答しており、昨今の経済状況を鑑みても、商品の値上げは家庭に大きな影響を与える可能性があるため受け入れがたいと感じる人は多いかもしれない。

「見た目が悪くても購入するか」の設問で「購入しない」と回答した人のうち、「付加サ

ービスがあれば購入するか」については 82.0%の人が「購入する」と回答した。包装の見直しによる値上げは容認できないが、逆に値引きやポイント還元があれば利用するという人が多いことから、ごみを減らせる、環境保全への貢献に加え対象商品選択時のさらなるメリットを求める傾向が伺える。

以上より、先のアンケート調査と概ね同じ傾向がみられたが、包装の見直しによる値上げについては「許容」が 6 割以上を占め、それだけトレイ等のかさばるごみに困っている家庭が多いと考えられ、今後の販売方法、包装方法を見直す一因となり得る。

なお、トレイをビニール袋に変更した場合は、容器代も安くなり、プラスチックの使用量を削減できるだけでなく、使用する石油量、廃棄時の CO2 排出量を大幅に削減することが可能となるが、トレイを紙製にした場合は、同じく環境負荷を軽減できるものの、容器の値段が現在のプラスチック製トレイよりも高額になるため、商品の値上げが必要になる場合がある。これらを踏まえたうえで、今後市民や企業の意見を反映できる取組につなげていきたい。